

pon

kanpi-sos



北海道

ポン カンピソシ

7

◆アイヌ文化紹介小冊子

芸能



本書のねらい

北海道立アイヌ民族文化研究センター*では、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」*への取り組みの一環として、1995（平成7）年度より、アイヌ文化を紹介する小冊子を毎年1冊ずつ刊行しています。

これまでに、第1巻「イタク はなす」で言葉を、第2巻「イミ 着る」、第3巻「イペ 食べる」、第4巻「チセ 住まい」で衣・食・住を、第5巻「イノミ 祈る」で信仰を、第6巻「ウエネウサラ 口頭文芸」では口頭で伝承されてきた物語について紹介してきました。

この第7巻では、芸能についてとりあげました。アイヌの芸能のあらましについて、歌や踊り、楽器のいろいろなどを挙げながら紹介しています。またアイヌの芸能について学ぶための文献や、実際の歌や踊り、楽器の演奏などを見たり聞いたりできる資料や施設などについて紹介しています。

*北海道立アイヌ民族文化研究センターは、2015（平成27）年4月より、
北海道開拓記念館と統合し北海道博物館となっています。

*国連が定めた「世界の先住民の国際10年」は1994年から2004年までです。なお国連は、2005年から2014年までを「第二次 世界の先住民の国際10年」としました。

ポン カンピ ソシ
pon kanpi-sos → 小冊子
小さい 紙 束

目次

[1] アイヌの芸能のあらまし	2
[2] 歌と踊りと楽器	8
1 歌と踊り	10
2 楽器のいろいろ	16
[3] 芸能について学ぶために	22
1 文献	22
2 視聴覚資料	24
3 博物館など	28

[1] アイヌの芸能のあらまし

アイヌ民族が育んできた文化の一つに、様々な歌や踊りなどの芸能があります。どの民族にも、それぞれが育んできた歌や踊りなどがあり、お祭りや儀式の中で演じられたり、あるいは日々の暮らしの中で伝えられてきました。アイヌの昔話などにも、様々な歌や踊りが、儀式のときに行なわれたり、日々の生活の中で楽しまれるようすを語っているものがあります。日本の江戸時代や明治の初期に書かれた文献の中にも、このような歌や踊りの記録が見られます。

Among the several forms of culture the Ainu people have long fostered are folk performing arts represented by a variety of music, songs and dance.

Music, songs and dance have developed in every one of the ethnic groups and have been transmitted through performances on such occasions as festivities, rituals and in informal activities in daily life.

Some vignettes from old Ainu folk-tales tell how very much songs and dances of various sorts are enjoyed by Ainu people when performed during rituals and in the course of daily life. Activities of the Ainu people such as these are described in some of the documents written by non-Ainu people in the Edo and early Meiji periods.

Introduction to the Folk Performing Arts of the Ainu People

明治時代以降、アイヌの芸能をめぐる環境は大きく変化し、昔のような踊り方や歌い方、楽器の演奏などを受け継ぐ人は少なくなりました。その背景として、他の民族や社会と同様に、ラジオやテレビをはじめとする新たな娯楽が登場したり、学校教育などを通じて西洋風の音楽が広まつたことなどが挙げられます。また特にアイヌ民族の場合、いわゆる同化主義のもとで、伝統的な歌や踊りを演じる機会が減少したことなども要因です。

そのような時代の中でも、儀式などで集まったときに歌や踊りを楽しむことは各地で見られましたし、ふだんの暮らしの中で折りに触れて昔ながらの歌を口にした人も多かったといいます。また、観光地などで披露することを通じて伝承されてきた歌や踊りもあります。

Drastic changes in the climate surrounding Ainu folk performing arts since the Meiji era have resulted in a gradual decrease in the number of people who have learned traditional Ainu styles of dancing, singing and the playing of musical instruments. This is attributable to the emergence of new forms of entertainment, to radio and television and to the wider introduction of Western music influences as is the case with other ethnic groups and societies. Yet, the assimilation policy, particularly in the case of the Ainu, has been another factor contributing to the fewer opportunities of experiencing their traditional performing arts.

Despite the cultural changes of the times, their performing arts, including singing and dancing, were still appreciated when they gathered for rituals and ceremonies and some people still sang their traditional songs in their daily lives. Some of the songs and dances have been preserved and transmitted through performances for visitors at tourist sites.

現代では、他の多くの人々と同様に、アイヌも一人ひとりが様々な歌や踊りに親しんでいます。それとともに、先祖から受け継がれてきたものを学び伝えることも行なわれています。

近年、アイヌの伝統文化の復興・継承の気運の中で、アイヌの芸能についても関心が高まり、学習・伝承へ向けた動きもおこってきました。道内のいくつかの地域では、舞踊の保存会などが組織され、それぞれの地域で伝承されてきた歌や踊りを学んだり、新たに他の地域のものを採り入れたりする活動が行なわれてきました。



写真1 帯広カムイトウウポポ保存会の公演
(1997年、春採アイヌ古式舞踊驯路リムセ保存会30周年記念公演)

Today, every Ainu person enjoys various sorts of songs and dances including both traditional and contemporary ones, just as do many others. Some of them are learning and transmitting traditional styles of performing arts which their ancestors have passed down.

Amid the recently increasing trend toward restoration and transmission of traditional Ainu culture, more Ainu people today are learning and transmitting their performing arts in their respective areas, while in some cases adopting the traditions of other areas in their own regions. Organized efforts to

1984（昭和59）年には、「アイヌ古式舞踊」が国の重要無形民俗文化財の指定をうけ、同年と1994（平成6）年に合わせて17の団体がその保持団体として指定されました（→31ページ）。さらに2009（平成21）年、「アイヌ古式舞踊」はユネスコの無形文化遺産にも登録されました。

こうした動きの中で、各地で公演なども行なわれるようになり、伝統的な歌や踊り、楽器の演奏を録音・録画したものが出版され、鑑賞や学習に利用されています。現代的な音楽の要素を採り入れるなどした創作活動も見られます。

この小冊子では、これらの中から、伝統的な歌や踊りと楽器について紹介します。

アイヌの伝説や神話などの物語のほか、祈りの言葉、あらたまつた場での挨拶^{あいさつ}の言葉などには、語られるときにメロディーがついており、歌のように感じられるものもあります。これらのうち、物語については、このアイヌ文化紹介小冊子の第6巻『口頭文芸』でとりあげています。

preserve Ainu traditional dancing have been made in some areas in Hokkaido. These activities led to public performances at various locations and traditional songs and dances were recorded for learning and pleasure.

Some elements of contemporary music have been incorporated into the innovative styles of performance which are emerging today.

This handbook shows some of the wide variety of traditional styles of Ainu folk performing arts.

アイヌの芸能についての調査や採録の歴史

早い例では、17世紀末の日本の江戸時代の文献に、少しづつですが、アイヌの踊りについての記録が見られます。1799年に成立したとされる『蝦夷島奇觀』には、踊りや歌に関する説明が見られ、楽器や踊りのようすが描かれています。

20世紀になると、録音や録画によってアイヌの芸能が記録されるようになりました。早くは、1897年にフランスのリュミエール社が日本各地を撮影した映像フィルムの中に、北海道で録画されたアイヌの踊りの映像が含まれています。1900年ころには、ポーランド出身のブロニスワフ・ピウスツキ(1866～1918)が、サハリン(樺太)で現在のレコードにあたる蠅管ろうかんを使ってアイヌの歌や物語の録音を行なっています。



写真2 『蝦夷島奇觀』(復刻版)

1923（大正12）年には、音楽学者の田辺尚雄（1883～1984）がサハリンでアイヌの音楽の録音を行なっています。同じ頃から、金田一京助（1882～1971）、久保寺逸彦（1902～1971）、知里真志保（1909～1961）らアイヌ語やアイヌ文化の研究者も、物語とともに歌や踊りを採録しています。

戦後には、伝統的な芸能の記録を目的とした組織的な調査も行なわれるようになりました。例えば、日本放送協会（NHK）の事業の中でも札幌放送局による1961～63（昭和36～38）年の調査では、北海道の各地で300名以上の伝承者から採録しています。

写真3 日本放送協会（編）『アイヌ伝統音楽』
上記のNHK札幌放送局による調査をもとに刊行されたものです。ソノシートが付いています。



写真4 田辺秀雄監修
『南洋・台湾・樺太諸民族の音楽』
田辺尚雄が1923年にサハリンで録音した音楽も収められています。

[2] 歌と踊りと楽器

アイヌの歌や踊りには、日常の暮らしの中で歌われるものや、儀式のときに演じられるものなど、様々な種類があります。

伝統的な踊りは歌とともにに行なわれます。手拍子などを除いては声だけで行なう曲がほとんどですが、古い記録やサハリン（樺太）の踊りには楽器の伴奏をともなうものもあります。

それぞれの歌、踊り、楽器の種類の呼び名は地域により違いがあり、同じような呼び名でも地域により内容などが違うこともあります。例えば、立って輪になって歌いながら踊るものを胆振の白老地方では主にリムセと呼びますが、日高の沙流地方では主にホリッパといい、旭川地方では主にウポポと呼んでいます。



Ainu songs and dances are classified in various categories such as songs that are sung during everyday life and those performed during rituals and ceremonies.

Traditional dances are performed accompanied by singing. These songs generally are sung by keeping time using hand-clapping alone. References to singing in other styles of performance which were accompanied by musical instruments are recorded in old documents, and some Ainu dances in Sakhalin are performed to instrumental accompaniment.

Songs, Dances and Instruments

アイヌの芸能は、特定の専門家によって作られたり演じられたりしてきたものではありません。その多くは、それぞれの地域や家庭で、実際に歌ったり踊ったりすることを通じて伝承されてきました。

メロディや踊りの動きなどを細かに記した楽譜や教本のようなものがあったわけでもありません。歌詞は曲ごとにおおむね決まっていますが、掛け声などを即興的に加えたり、曲の種類によっては歌い手のそのときそのときの感情などを歌詞にして歌うこともあります。

いっぽうで、演じる場がある程度決まっていたり、演じる人が年齢や性別によってある程度決まっている場合もあります。こうした決まり方も地域や個人、時代によつて様々です。

The performing arts of Ainu people have never been connected with specific experts. Instead they have been transmitted mostly through the active involvement of family members in singing and dancing at home and in the local communities where the people have resided.

There are no music scores or texts describing the detailed movements of dancing. The words are already determined for most pieces, although singing is at times improvised by adding shouts or substituting words expressive of a singer's emotions at the time, all depending upon the types of songs being sung. Some songs and dances are performed on specific occasions and the age and sex of the performers are determined as well. The rules to determine these things vary depending on area, individual performer and era.

1 歌と踊り

様々な種類の歌や踊りの中から、いくつかをとりあげて紹介します。

● 座って数人で歌う歌

数人の歌い手が漆塗りの器の蓋を囲んで座り、全員で蓋を手で軽く叩いて拍子をとりながら歌います（図1）。

このように二人以上で歌う時の歌い方にはいくつか種類がありますが、比較的よく知られているのは、一人ずつ、または何人かのグループに分かれて、同じ歌を一定の間隔をおいて歌い出す、というものです。ひとつのメロディを少しづつ間をおいて歌っていくことによって、複雑だけれどもまとまりをもった響きを生み出しています。

こうした歌い方は、他の踊りの曲などでも使われます。



図1

1 Singing and Dancing

Some of the music, songs and dances from a variety of examples are described in the following sections.

Sitting Songs

A few singers are seated around the lid of a lacquer ware container and all parties sing together while tapping the lid to beat time.

Circle Dance

All the performers stand in a circle facing the center and dance moving clockwise while singing.

旭川市で伝承されている歌の一例です。「ポン クトントコ イタソ カタ エトウニン
トゥニン エトウニン チャリ pon kutosintoko itaso ka ta etunin tunin etunin cari」という歌詞を繰り返し歌っているところです。

歌い手A … ボンクトシントコ イタソーカタ エトゥニントゥニン エトゥニンチャリ ボンクトシントコ イタソ…

歌い手B … リ ボンクトシントコ イタソーカタ エトウニントゥニ エトウニンチャリ ボンクトシントコ イタ …

歌い手C … ナンチャリ ボンクトシントコ イタソーカタ エトウニントゥン エトゥンニンチャリ ボンクトシントコ …

(●は漆塗りの器の蓋を手で叩くところ)

この歌では「ポン」のところを高い裏声で歌うので、全体に低めの声で歌われる響きの中では、この部分に来るとポンポンポン…と、次々と浮かび上がるように聞こえます。

(上の譜例は、日本放送協会編『アイヌの音楽』(1967年)に収録されている演唱をもとに、当センターで作成したものです。)

【音】ここをクリックすると、旭川の杉村フサさん、太田シゲエさんほかに、この歌を演唱していただいている音声を聞くことができます。

● 輪になって踊る踊り

一同が中心を向いて円陣をつくり、歌いながら時計回りに進んでいく踊りです。

踊りはおむね、簡単な足さばきや手さばきをいくつか組み合わせて繰り返していくものです。歌詞は「ホイヤ」などの掛け声のような言葉によるものが多く、メロディも比較的短いまとまりでできています。

写真5 アイヌ民族博物館（現：公益財団法人アイヌ民族文化財団）の公演（1998年、国立劇場）



● 杵搗きをしながら歌う歌

穀物などを搗くときに、その動作にあわせて歌います。近年ではこれをひとつの芸能の演目として行なうようになりました。作業のための簡単な掛け声のようなものから、ある程度まとまった歌詞を持つものまでいろいろあります。



写真 6 杵搗きのようす

Songs Sung Accompanied by Pounding

The songs in this category are sung in accordance with the rhythms and movements associated with pounding grain. The pieces have been played as part of the repertoire in recent years.

Dances Mimicking Animal Movements

The major components of dances of this kind are body movements mimicking the most representative motions of animals and the dances passed down through the generations vary depending on area. For instance, there are dances for crane, snipe, swift, sparrow, fox and grasshopper.

● 動物のしぐさをおりこんだ踊り

動物のしぐさを真似た動きをおりこんだ踊りです。地域によって伝承されている曲は様々です。ツル、シギ、アマツバメ、スズメ、ネズミ、キツネ、バッタなどの踊りがあります。

歌詞にも、それらの動物の名称や鳴き声をあらわす言葉が使われたりしています。



写真7 鶴の舞い
(アイヌ民族博物館(現:公益財団法人アイヌ民族文化財団)の公演、1998年、国立劇場)

アイヌの伝統的な歌では、音の高い低いだけではなく、声の出し方にともなう音色を組み合わせたりすることも、大事な要素となっているようです。

歌の中では例えば、ふつうに話すときとそれほど変わらない声、唸るような声、細い裏声など、いろいろな音色が聞かれます。息を吐いたり吸ったりする音を使う場合もあります。また、ふつうの声と裏声とをすばやく往復させたり、喉の奥を使って声を小刻みに出すなど、独特な響きを出す方法も聞かれます。また、「rrrr」と連続して舌先を震わせる音がありますが、これを鳥のしぐさをおりこんだ踊りの中で鳥の鳴き声として用いたり、他の踊りで掛け声に使ったり、子守歌（14ページ）の中で赤ん坊をあやすための音として歌詞に組み込んだりします。

こうしたいろいろな声の使い方は、曲の中で音楽的な効果を生み出す要素のひとつにもなっているものです。時代や地域、一人ひとりの声の質やその人なりの工夫によって違ってくることがあります。例えば11ページの歌で「ポン」を裏声で歌うなどのように、音色の使い分けなどが伝えられているものもあります。

● 男性が舞うもの

床をゆっくり踏みしめながら両腕を上下させおごそかに舞います。比較的知られている例では、主に年長の男性が行ない、舞いながら、唸るような独特な声を出しています。このときのメロディには、その人その人に固有な節まわしがあると言われています。このほか、短い祈りの言葉などをおりこんで唱えたりする場合もあるなど、地域によって様々なやり方があるとされています。

男性を主として踊るものには、このほか、弓矢を手にして踊る踊りや、刀を手にして踊る踊りなどもあります。

● 子守り歌

赤ん坊をあやしたり寝かしつけながら歌うものです。歌詞の内容としては「育てのゆりかごが／高い天からおりてくるよ／おまえがよい眠りをすれば／立派な人になるよ」といったものや「泣かないで／おまえは眠るのだよ／眠らなければ／ばけもの鳥がやってくるぞ」というものなどが知られています。

Dances Performed by Men

Performers dance solemnly with both arms moving up and down while stepping on the floor slowly and firmly. In other dances which are performed mostly by men, performers dance with a bow and arrow or a sword in hand.

Lullabies

These are songs Ainu people sing while rocking babies and small children to put them to sleep.

Lyric Songs

Singers sing to express emotions of joy, happiness, sorrow and love that they feel in their present lives or that they connect with old memories.

●自分の気持ちを歌う歌

歌い手が、昔の思い出や、そのとき感じた喜びや悲しみや愛しさなどの気持ちを歌うものです。「ヤイサマネナ」「アヨロロペ」などの掛け声のような言葉や、悲しくて泣けることを表わす「二つの清い涙／三つの清い涙を／私は流す」などの言い回しを歌詞に組み込んだりします。メロディは人により様々です。他の人の歌を覚えて歌うこともあります。

【歌詞紹介】

平取町の鍋沢キリさんに歌っていただいた歌の出だしの部分を紹介します。

 [ここをクリックすると、この部分の鍋沢キリさんによる実際の音声を聞くことができます。](#)



写真8 鍋沢キリさん
(アイヌ民族博物館主催
「アイヌ文化教室」にて)

ホレ コレンナ ホレ ホレンナ	hore korenna hore horenna	
ホレ ホレ ホレ ホレンナ	hore hore hore horenna	
ホレ ホレ チカブ タ クネ	hore hore cikap ta ku=ne	鳥になりたい
とり タ クネ ネ ワネ ヤクン	TORI ta ku=ne ne wa ne yakun	鳥になりたい そうしたら
ホレ コレンナ タパン テ ワノ	hore korenna tapan te wano	今から
クキ ホブニ クキ ホブニ	ku=ki hopuni ku=ki hopuni	私は飛ぶ 私は飛ぶ
ネ ワ ネ ヤクン ホレ ホレンナ	ne wa ne yakun hore horenna	そうしたら
ホレ ホレ ホレ ホレンナ	hore hore hore horenna	

(1994年9月6日に録音したものを当センターで文字にしたもの)

2 楽器のいろいろ

● 口琴 こうきん

写真 9、10 は、一般に口琴と呼ばれる楽器の一種です。



写真 9 竹製の口琴



写真 10 金属製の口琴

竹製の口琴は道内でも比較的多くの地域に伝わっていますが、昔はそのような楽器はなかったというところもあります。

長さ10~15cmていどの薄いもので、中央に弁（振動させる細い部分）となる切り込みを入れてあります。弁の根もとあたりにつけた紐を引いて弁を振動させ、それを口の中の空間に響かせます。このとき、息を吸ったり吐いたり、舌を上下させたり、口の中を広くしたり狭くしたりすると、音の響き方がいろいろに変わります。その変化を曲として繰り広げていきます。

多くの場合独奏するほか、数個の口琴で合奏したりもします。

金属製の口琴は、主にサハリン（樺太）でみられます。弁の先端は少し反っています。弁は直接指で弾くなど、竹製のものとは演奏のしかたが違います。

口琴は、他の民族にも様々な材料や形のものがみられます。



写真 11 『安東ウメ子・ムックリの世界』幕別町教育委員会
幕別町でくらしていた安東ウメ子さんによる口琴の
演奏を収録したCDです。

☞ [ここをクリックすると、このCDに収録されている
安東ウメ子さんの演奏の一部を聞くことができます。](#)

2 Musical Instruments

Ainu Jaw Harps

Bamboo instruments are distributed relatively extensively throughout areas of Hokkaido, although instruments of this type did not exist in the past in some areas. Metal instruments are seen mainly in Sakhalin.

● 五弦琴

サハリン（樺太）や北海道の一部には、弦を指で弾いて演奏する楽器が伝わっています。弦の数がたいてい五本であることから五弦琴と訳されたりしますが、弦が六本や三本のものもあることが知られています。

演奏は、独奏するほか、何人かで合奏することもあります。

また、短い歌詞が伝わっている曲もあり、五弦琴の弾き手が同時にそれを歌うこともあります。

そのほか踊りの伴奏にも使う曲として伝えられているものもあります。



写真 12 五弦琴

楽器の曲について

伝統的な演奏では、口琴の曲も五弦琴の曲も、基本的には動物の鳴き声やその他の自然界の音の模倣などを中心に組み立てられています。何の模倣であるかによって曲の呼び方を区別したりもしますが、必ずしも固定的な題名や作曲になっているというわけではありません。

Five-Stringed Zithers

These musical instruments are played by plucking the strings with the fingers.

Other Types of Musical Instruments

● その他の楽器

サハリンでは、写真のような太鼓を用いていたことが知られています。直径は40~50cmくらいで、楕円形の木の枠の片面に革を張ってあります。裏側に持ち手があり、細長いへら状の木に毛皮などを巻いたバチで革や枠を叩いて鳴らします。

楽器というよりも、儀式の道具として使われていました。

このほか昔の文献には、笛のような楽器として、ヨブスマソウの茎を利用したものや、木の皮をねじり巻いて管としたものなどが見られます。



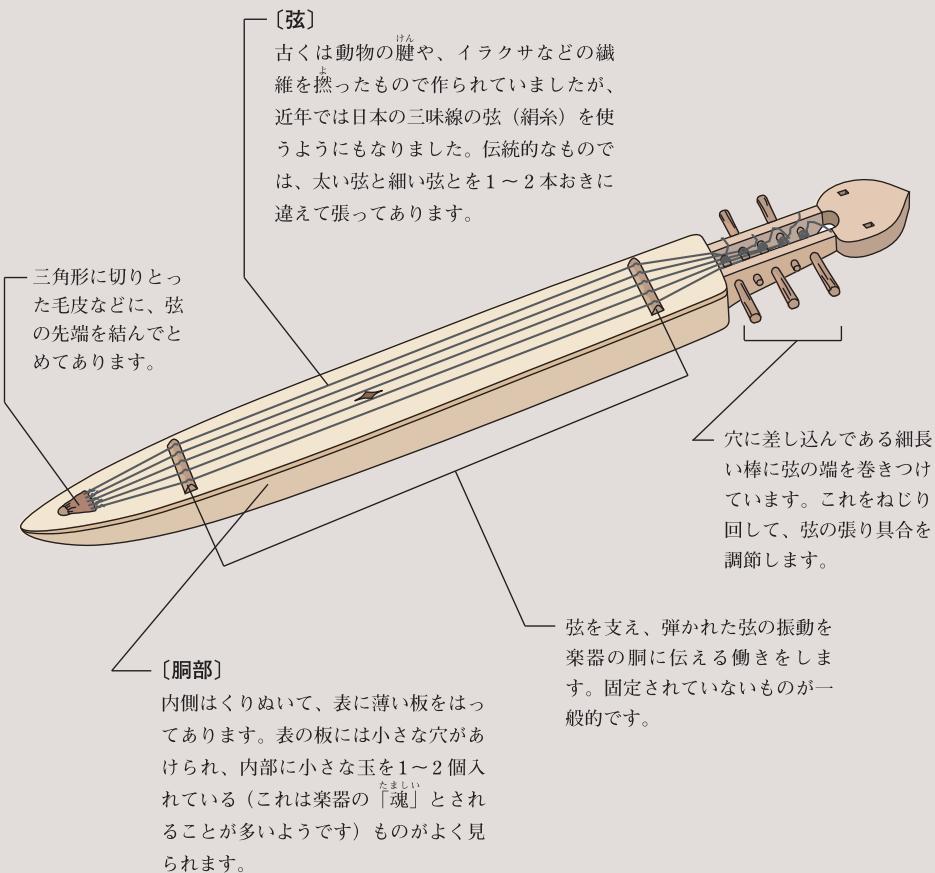
写真 13 太鼓とバチ



写真 14 松浦武四郎『蝦夷漫画』に描かれたさまざまな楽器のようす

五弦琴のつくりと演奏のしかた

【五弦琴のつくり】



【演奏のしかた】

演奏の前には、それぞれの弦がその曲の演奏に必要な高さの音になるよう、張り具合を調節しておきます。このときの基準となる音の高さはその人の声の高さに合わせるなどして決めていきます。

伝統的な演奏では弦を指で押さえて音の高さを変えることはせずに、両手の指先でじかに弾きます。

写真15は座って演奏しているところです。また写真16のように、立って弾きながら歌ったり踊ったりすることもあります。

サハリン（樺太）出身の西平ウメさんによる演奏のようす



写真 15

※ここをクリックすると、西平ウメさんによる五弦琴の演奏(1967年に網走市で録音されたものです)を聞くことができます。

※この音声は、東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵の音声資料で、この小冊子のために特に許可を得て使用しているものです。他の目的での使用及びこの小冊子からの一切の複製を禁じます。



写真 16

[3] 芸能について学ぶために

アイヌの芸能について学ぶための基本的な文献や、歌や踊り、楽器の演奏などを視聴することができる資料などを紹介します。現在でも書店などで入手できるものには価格を記しました。

※アイヌ語やアイヌ文化に関する学習のための図書や視聴覚資料、博物館等の施設については、『アイヌ文化紹介小冊子10 総集編』(2005年) でも紹介しています。

1 文献

① 概説書

- アイヌ民族博物館監修 『アイヌ文化の基礎知識』 草風館
1993年 1,600円（税別）
- 金谷栄二郎、宇田川洋 『ところ文庫2 権太アイヌのトンコリ』
常呂町郷土研究同好会 1986年
アイヌの五弦琴についての概説書です。主な研究書や古い文献を紹介し、五弦琴の構造や作り方、演奏方法などを掲載しています。
- 『アイヌ古式舞踊』 財団法人アイヌ民族博物館 1986年
白老町に伝承されている歌や踊りについての写真と説明文が掲載されています。
- 『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽 別巻I』 岩波書店 1989年
アイヌ音楽の概説として、谷本一之「アイヌ音楽」が掲載されています。
- 『日本伝統音楽芸能研究会(編) 『邦楽百科入門シリーズ CDブックⅢ 日本の音 声の音楽3』』
『同IV 日本の音 楽器の音楽』 音楽之友社 1998年
1988年にカセットブックとして発売されたシリーズのCD版です。Ⅲには小林幸男「イヨンノッカ雪と氷にこだまする、アイヌの子守唄」が、IVには同「奏でてみよう、アイヌの楽器《ムックン》」が掲載されています。付属CDにはいずれも1971年に行われた国立劇場での公演での曲が収録されています。
- 『日本音楽基本用語辞典』 音楽之友社 2007年 1,800円（税別）
「アイヌ音楽」の項目があり、アイヌ音楽の概要について10ページにわたり主要な用語を中心に解説しています。



② 専門書、調査報告書など

- 日本放送協会(編)『アイヌ伝統音楽』日本放送出版協会 1965年 <7ページ>
- 谷本一之『アイヌ絵を聴く 変容の民族音楽誌』北海道大学図書刊行会 2000年
16,000円(税別)
アイヌの芸能の変容について考察した著作です。今世紀初頭のサハリンでの録音から現代までの録音を収めたCDが付いています。
- 知里真志保『アイヌに伝承される歌舞詞曲に関する調査研究』文部省文化財保護委員会
1960年(『知里真志保著作集2』平凡社 1973年 所収)
アイヌの歌、踊り、物語など、口頭で伝承され演じられるもの全般について論じたものです。

《教育委員会等が発行する報告書など》

- 門別町郷土史研究会(編)『沙流アイヌの歌謡 解説』門別町郷土史研究会 1966年
- 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会(編)『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』北海道アイヌ古式舞踊連合保存会 1987年
- 日本民俗舞踊研究会(編)『北海道アイヌ古式舞踊』日本民俗舞踊研究会 1987年
- 日本民俗舞踊研究会(編)『カラフトアイヌ古式舞踊』日本民俗舞踊研究会 1985年
- 北海道教育委員会(編)『アイヌ古式舞踊調査報告』I~III 北海道教育委員会
1990~92年



2 視聴覚資料

《CD（コンパクトディスク）など》

- 『〈日本の民族音楽〉日本のハーモニー』キングレコード 1991年

平取町二風谷で録音された歌3曲が収録されています。音源は1977年に発行されたLPレコードに収録されていたものと同じです。

- 『〈日本の民族音楽〉楽器玉手箱』キングレコード 1991年

サハリン（樺太）出身の伝承者から手ほどきを受けた演奏者による五弦琴の演奏と、釧路市阿寒の伝承者による竹製の口琴の演奏が3曲収録されています。

- 『安東ウメ子・ムックリの世界』幕別町教育委員会 1994年
〈本文17ページ参照〉



- 『アイヌのうた』ビクターエンタテインメント 2000年
1,995円（税込）

平取アイヌ文化保存会による各種の歌などが収録されています。

- 『昔話 ふるさとへの旅【北海道】』キングレコード 1999年

むかわ町、本別町の伝承者らによる歌などが収録されています。

- 『ムックリの響き：アイヌ民族の口琴と歌』日本口琴協会 2001年 3,000円（税込）
釧路市阿寒、弟子屈町、標茶町、浦河町の伝承者らによる口琴の演奏や歌が収録されています。

- 『アイヌラマチ（アイヌの魂）からのメッセージ』関東ウタリ会 2001年 3,000円
関東ウタリ会会員による五弦琴の演奏や歌が収録されています。



- 『ケウトゥム ピリカ 一子どもたちと愉しむアイヌ舞踊一』パストラルレコード（販売：游企画） 2000年 2,500円（税込）
十勝地方に伝わる歌を中心に22曲を収録しています。主に学習教材用として製作されたものです。
- 『世界民族音楽大集成 3 アイヌの歌と踊り』『同 4 アイヌのユーカラ』キングレコード 1992年
シリーズ100枚組のうちの2枚です。『3』には白老町、釧路市阿寒、平取町、新ひだか町静内出身の伝承者による歌が、『4』には北見市常呂在住の伝承者による五弦琴の演奏ほかが収録されています。音源は主に1977年にLPレコードにされていたものですが、解説は新たに書き下ろされています。
- 『UNESCO COLLECTION Japan/Japon Ainu Songs/Chants des Ainou』Smithsonian Folkways Recordings / Auvidis-UNESCO 2015年
日高地方やサハリン出身の伝承者によるいろいろな種類の歌や口頭文芸などが14曲収録されています。
1980年に発行されたLPレコードをCD化したものです。
- 『アイヌ・北方民族の芸能』日本伝統文化振興財団 2008年 8,571円
1976年に制作された3枚組のLPレコード（→27ページ）をCDで復刻したもので、解説等は新たに全面的に書き下ろされています。
- 田村すず子『アイヌ語音声資料4 福満・鶴川の歌謡』（1987年）『同5 二風谷の昔話と歌謡・神謡』（1988年）『アイヌ語音声資料選集 韻文編』（1997年）早稲田大学語学教育研究所 非売品
早稲田大学語学教育研究所が発行するアイヌ語の教材シリーズです。沙流川流域の伝承者らによる歌などを中心に収録したカセットテープです。
- 萱野茂『萱野茂のアイヌ神話集成』全10巻 ビクターエンタテインメント 1998年
萱野茂氏が昭和30年代から主に平取町において録音したもので、10巻めに各種の歌などが収録されています。
- 千葉伸彦編『阿寒のうた（ウポボ）』クルーズ 2012年 2,500円
- 『アイヌ生活文化再現マニュアル』公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構／公益財団法人アイヌ民族文化財団
毎年1冊ずつ刊行されている映像付の解説本のシリーズです。各地の踊りを取り上げた巻や、トンコリを取り上げた巻があります。主な図書館に送付されているほか、アイヌ民族文化財団のウェブサイトに映像が掲載されています。



《ビデオテープなど》

- 『国際先住民年記念 第6回アイヌ民族文化祭』
社団法人北海道ウタリ協会（現：公益社団法人
北海道アイヌ協会）1993年

1993年に行なわれたアイヌ民族文化祭のもようを収録したものです。国の重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」の保持団体として指定を受けた保存会<本文31ページ>のうち15団体による歌や踊りが収録されています。



- 藤井知昭監修『音と映像による新世界民族音楽大系 1. 北・東アジア I II』

ビクター・平凡社 1995年

竹製の口琴や五弦琴の演奏、旭川の保存会による歌と踊り、旭川で行なわれた儀式の一部が収録されています。



- 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会(編)『アイヌ文化伝承記録ビデオ大全集』
財団法人アイヌ無形文化伝承保存会

1976（昭和51）年から2003（平成15）年までに、全7シリーズ33巻が制作されたビデオ映画です。これらのうち、「釧路川・アイヌの祭事」「十勝川・アイヌのうたと踊り」「鶴川・アイヌの神事と踊り」「掘る・編む・奏でる」「織る・奏でる・祈る」などで、歌や踊りや楽器の演奏を視聴することができます。



※財団法人アイヌ無形文化伝承保存会は2007（平成19）年度末をもって解散しました。同会が制作した視聴覚資料についての問い合わせの窓口は、公益社団法人北海道アイヌ協会（011-221-0462）となっています。

●『十勝アイヌの唄と踊り』帯広市教育委員会 1993年

十勝地方に伝わる歌や踊り、儀式のようすなどが記録されています。昭和44～46年にかけて記録された映画を再編集したビデオです。帯広市図書館などで視聴できます。

●財団法人アイヌ無形文化伝承保存会(編)『アイヌ文化を学ぶ THE CULTURE OF AINU』 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会 1997年

アナログ式のレコード盤や映画フィルムは、現在では限られた所蔵機関などで視聴できるのみですが、その中から伝統的な歌や踊りを記録した資料の主なものを紹介します。いずれも20年以上前に製作されたものです。

●レコード盤

- 知里真志保監修『アイヌ歌謡集 第1集 石狩 十勝 鉾路 胆振 日高』(1948年)『同第2集 北見 天塙 鉾路 胆振』(1949年) 日本放送協会放送文化研究所・日本コロムビア
1947年と1948年に北海道の各地で収録された、合計41枚のシリーズになっているSPレコードです。

- 日本放送協会『樺太アイヌの古謡』日本放送協会 1951年

サハリン出身の人々から1951年に採録した、合計21枚のシリーズになっているSPレコードです。

- 『アイヌの音楽』日本放送協会 放送業務局資料部音楽資料課 1967年

NHK札幌放送局が1961～1962年に北海道の各地で収録したものから240曲が選曲・編集されています。
10枚組のLPレコードです。

- 本田安次・萱野茂監修『日本の民俗音楽 別巻 アイヌ・オロッコ・ギリヤークの芸能』ピクター音楽産業株式会社 1976年

釧路市、標茶町、平取町、旭川市、サハリンの出身者らによる伝統的な歌や楽器演奏などを収録した3枚組のLPレコードです。

- 田辺尚雄録音・調査、田辺秀雄企画・監修『南洋・台湾・樺太諸民族の音楽』東芝EMI 1978年
<本文7ページ>

●映画フィルム

- 『北方民族の楽器』NHK放送文化財ライブラリー 1964年 18分モノクロ16mm

- 知里真志保監修『サルンクルの舞踊』北海道放送 1958年 10分モノクロ16mm

- 『アイヌの舞踊』北海道教育庁釧路教育局 1962年 15分カラー8mm

- 『アイヌの古式舞踊』インターナショナル映画 村田プロダクション 1952年 20分カラー16mm

●『ユーカラの世界』NHK放送文化財ライブラリー (第一部 1963年、第二部、第三部 1964年) 30分カラー16mm

3 博物館など

アイヌの芸能に関する音や映像の資料を視聴できたり、楽器などを展示している主な施設を紹介します。

●見学・視聴できるところ

《道内》

- 阿寒湖アイヌシアター イコロ： 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 電話014-67-2727 (阿寒湖アイヌコタン)
アイヌ古式舞踊などの公演を見ることができます。



- 北海道博物館： 札幌市厚別区厚別町 電話 011-898-0466
「見て 聞いて アイヌ文化の世界」というコーナーで、さまざまな地域の歌や踊りの様子や、楽器の演奏の映像を視聴することができます。館内の図書室でも、視聴覚資料を閲覧・視聴できます。また、総合展示ではトンコリを実際に手にして弾くことのできるコーナーがあり、館内の「はっけん広場」ではムックリを鳴らす体験ができるキットがあります。

- 北海道立アイヌ総合センター資料展示室： 札幌市中央区 かでる2・7（7階） 電話 011-221-0462

展示室内に、道内各地の古式舞踊保存会（31ページ）による踊りを視聴できる設備があります。隣接の図書情報室では、昭和61～平成元年度に製作された『アイヌ古式舞踊』1～4（各50分）や『アイヌ民族文化祭』（北海道アイヌ協会主催）の録画テープなどを視聴できますが、こちらは事前に連絡が必要です。

- 北海道立北方民族博物館： 網走市字潮見 電話 0152-45-3888
展示室内にある情報検索ボックスという設備で、サハリンの口琴や五弦琴の演奏などを聞くことができます。

- 民族共生象徴空間： 白老町若草町 （2020年4月開設予定）

-
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館： 沙流郡平取町二風谷 にぶなに 電話 01457-2-2892
展示室内で、歌や踊りのビデオを視聴することができます。
 - 萱野茂二風谷アイヌ資料館： 沙流郡平取町二風谷 にぶなに 電話 01457-2-3215
館内で萱野茂氏著作のCDなどを聞くことができます。
 - 苫小牧市美術博物館： 苫小牧市末広町 にぶなに 電話 0144-35-2550
展示室内で、口琴の演奏を聞くことのできる設備があります。

《道外》

- 国立歴史民俗博物館： 千葉県佐倉市城内町 にぶなに 電話 043-486-0123
ビデオボックスというコーナーと第5展示室で、歌や口頭文芸を視聴することができます。
- アイヌ文化交流センター： 東京都中央区八重洲 にぶなに 電話 03-3245-9831
アイヌの芸能に関する図書の閲覧やビデオテープの視聴ができます。
- 国立劇場調査養成部資料課： 東京都千代田区隼町 にぶなに 電話 03-3265-7411
国立劇場での公演のプログラムなどを閲覧できるほか、公演を収録したビデオを視聴することができます。視聴には事前の連絡が必要です。
- 東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室： 東京都台東区上野公園 にぶなに 電話 03-5685-7725
音楽学者の小泉文夫による調査録音資料のうち、アイヌの芸能に関するものの一部をインターネット(<http://www.geidai.ac.jp/labs/koizumi/index.html>)で聞くことができます。
- 国立民族学博物館： 大阪府吹田市千里万博公園 にぶなに 電話 06-6876-2151
ビデオテークという装置で、五弦琴の作り方などのプログラムを視聴することができます。
- 公益財団法人大阪人権博物館 リバティおおさか： 大阪府大阪市 にぶなに 電話 06-6561-5891
ビデオのコーナーで、平取町に伝わる歌や踊りなどを視聴することができます。

* アイヌ文化に関する体験学習等を実施している施設や機関を紹介したパンフレットとして、公益財団法人アイヌ民族文化財団から、『ふれてみよう アイヌ文化』が発行されています。詳しい内容は同財団のホームページでも閲覧できます。

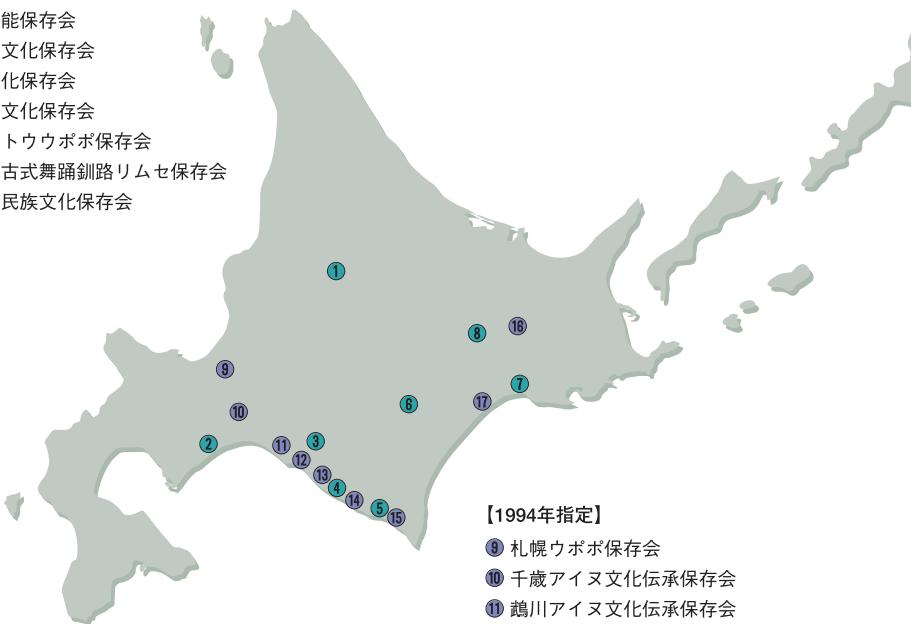
● 楽器の展示がある主なところ

- 網走市立郷土博物館： 網走市桂町 電話 0152-43-3090
- 函館市北方民族資料館： 函館市末広町 電話 0138-22-4128
- 紋別市立博物館： 紋別市幸町 電話 01582-3-4236
- 川村カ子トアイヌ記念館： 旭川市北門町 電話 0166-51-2461
- 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園（旧・農学部博物館）： 札幌市中央区 電話 011-251-8010
- 釧路市立博物館： 釧路市春湖台 電話 0154-41-5809
- 標茶町博物館 ニタイ・ト： 標茶町塘路 電話 015-487-2332
- 帯広百年記念館： 帯広市緑ヶ丘 電話 0155-24-5352
- 弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館： 弟子屈町屈斜路市街 電話 01548-4-2128

《国の重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」の保持団体として指定を受けた保存会》

【1984年指定】

- ① 旭川チカッピニアイヌ民族文化保存会
- ② 白老民族芸能保存会
- ③ 平取アイヌ文化保存会
- ④ 静内民族文化保存会
- ⑤ 浦河ウタリ文化保存会
- ⑥ 帯広カムイトウウボボ保存会
- ⑦ 春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会
- ⑧ 阿寒アイヌ民族文化保存会



【1994年指定】

- ⑨ 札幌ウポボ保存会
- ⑩ 千歳アイヌ文化伝承保存会
- ⑪ 鶴川アイヌ文化伝承保存会
- ⑫ 門別ウタリ文化保存会
- ⑬ 新冠民族文化保存会
- ⑭ 三石民族文化保存会
- ⑮ 様似民族文化保存会
- ⑯ 弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会
- ⑰ 白糠アイヌ文化保存会

●北海道アイヌ古式舞踊連合保存会：

札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 (7階)

電話 011-221-0462

● その他本書を書くにあたっての参考文献

- 小林幸男・小林公江「北海道アイヌの歌の諸相」『北海道アイヌ古式舞踊』日本民俗舞踊研究会 1987年
- 千葉伸彦「アイヌの歌の旋律構造について」『東洋音楽研究』61 東洋音楽学会 1996年
- 千葉伸彦「藤山ハルのトンコリ演奏について(1)」「北海道東部に残る樺太アイヌ文化Ⅰ」常呂町樺太アイヌ文化保存会 1996年
- 直川礼緒「日本の口琴の源流」小島美子・藤井知昭(編)『日本の音の文化』第一書房 1994年
- 谷本一之「アイヌの五弦琴」『北方文化研究報告 第13輯』北海道大学 1958年
- 谷本一之「アイヌの口琴」『北方文化研究報告 第15輯』北海道大学 1960年
- 谷本一之「アイヌ音楽音組織の研究」『北海道教育大学紀要 第一部C』17巻2号 1966年
- 富田歌萌「アイヌの弦楽器“トンコリ”」『北海道の文化』10 北海道文化財保護協会 1966年
- 近藤鏡二郎・富田歌萌「アイヌの弦楽器“トンコリ”」『音楽学』9巻(1) 音楽学会 1963年
- 萩中美枝「アイヌの歌謡」『口承文藝研究』19 日本口承文芸学会 1996年
- 知里真志保「アイヌの歌謡 第一集」『知里真志保著作集 2』平凡社 1973年(初出1958年)
- 本田安次「アイヌの芸能」『本田安次著作集 日本の伝統芸能 第二十巻』錦正社 2000年(初出1977年ほか)
- 久保寺逸彦「アイヌの音楽と歌謡」『民族学研究』5巻5・6号 日本民族学会 1939年
- 田邊尚雄「樺太土人の音楽」『島国の唄と踊』磯部甲陽堂 1927年
- 河野広道『アイヌの踊』楢書房 1956年
- 北海道開拓記念館(編)『民族調査報告書 資料編』I・II 北海道開拓記念館 1973年
- アイヌ文化保存対策協議会(編)『アイヌ民族誌』第一法規出版 1969年

● 協力(敬称略)

鍋沢キリ 富田友子 西平多美 清水キクエ 杉村満 杉村フサ 久保寺美美子 児玉マリ

公益財団法人アイヌ民族文化財団 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 国立劇場

● 写真提供、出典等

写真1 『北海道アイヌ古式舞踊写真集』北海道アイヌ古式舞踊連合保存会(CD) 1999年

図1 杉山寿栄男画 『アイヌ民族誌』第一法規出版 1969年

写真5、7、8、10 公益財団法人アイヌ民族文化財団

写真9、12 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

写真13 『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』草風館 1998年

写真14 松浦武四郎『蝦夷漫畫』(児玉マリ所蔵)

写真15、16 富田友子

上記以外は北海道博物館所蔵写真

◆発行——平成13年9月（増刷 平成24年7月）
(3刷 平成31年3月)

◆編集——北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター

AINU CULTURE RESEARCH CENTER, HOKKAIDO MUSEUM

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
TEL.011-898-0456 FAX.011-898-2657

<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/> (北海道博物館)

